

大川小の遺族会見

避難したのか

市に全資料開示要求

遺族一人ひとりがマイクを手に
 真実の究明を求めた。会見に臨
 んだ親の決意を見せるために娘
 の遺影を抱いた母も＝仙台市内

決意、遺影を抱いて



東日本大震災による津波で児童74人が死亡・行方不明となった石巻市立大川小学校の児童の遺族が16日、初めて記者会見を行った。情報公開で入手した市教委の資料をもとに、津波が来るまで避難行動はほとんど行われなかった、と指摘。市に対し、すべての資料を開示するよう求めた。

仙台市で開いた会見には、同小で子どもを亡くした8家族1人が出席した。遺族が公表したのは、昨年3月16日に、当時の柏葉照幸校長が市教委へ状況を報告した際の記録。市が開示した文書の中にあつた。

あの日から463日。「我が子の最後の瞬間を知りたい」。遺族はその一念で市教委に對話を求めてきた。カメラの放列に向かって声を詰まらせながらも、

息子は「山に逃げたい」と訴えていた

真実の究明を訴えた。その中に教諭の姿もあった。「昨日まで悩んだが、前例のない、だれも経験したことがない状況の中で教員だからこそ、やるべきこと

言うべきことがある。その役割は絶対果たそうと思っ

ていました」
 会見にのぞんだ遺族の一人、佐藤敏郎さん(48)は女

川町の女川第一中学校の国語教諭だ。当時6年生の次女を亡くした。妻のかつらさん(46)も今春まで中学校教諭だった。遺影を抱いて会見に出席。「10カ月間おなかに入れて苦しみも痛みも分かち合っ

助かった教諭が証言したと見られる内容で「(迎えに来た親への)引き渡し中に津波」「これまで津波が来なかったため油断？」などと記載されていた。

この点について遺族らは「避難中に津波に襲われた」とは書かれておらず、これまで市教委が説明してきた避難行動はほとんど行われなかった疑いがある」との見方を示した。

また、第三者機関に委託し専門家による調査委員会を設置して検証を行う、と遺族らはこの日、市教委に、今回入手した記録と

する市教委の計画を「遺族」と市教委との話し合いの中で専門家意見も採り入れるよう求めていた。我々の考えとはかけ離れている」と批判。撤回を求めた。

遺族らはこの日、市教委に、今回入手した記録と

れまでの説明と異なるとして、市教委に、今回入手した記録と